

Weekly Michael's News

<今週の聖句>

2016年8月1日発行 No.11

「見よ、わたしはあなたと共にいる。あなたがどこへ行っても、わたしはあなたを守り、必ずこの土地に連れ帰る。わたしは、あなたに約束したことを果たすまで決して見捨てない。」
(創世記 28章 15節)

<お昼の音楽礼拝で行われた聖歌隊の奉唱 第2弾!! 今度は英語の聖歌に挑戦!>

先週の火曜日は、前期最後の音楽礼拝を行いました!! 先回に続いて、聖歌隊が奉唱を行い、「What a friend we have in Jesus」(「いつくしみ深き」の英語版)を賛美しました。メロディは同じですが、歌詞が英語になるだけで難易度はぐっとアップします。しかし、学期末のテストを目前に控えている状況の中、毎週火曜日に集まって練習を積み重ね、前回は上回る程の美しいハーモニーをチャペルに響かせてくれました!! メンバー間の交流も深まり、目覚ましい成長を遂げている聖歌隊のメンバー。前期の礼拝は、聖歌隊の協力で賛美に勢いが生まれ、礼拝のバリエーションも多彩になりました!! 夏休みの間には集中練習も行い、後期は更にレベルアップした奉唱を入学・卒業式など各種式典でもお届けできるのではないかと楽しみにしています!! これからも聖歌隊をどうぞよろしくお願いします!!



本番前の最終練習!! 超緊張!!

ファンの方からお花を頂きました

ミーティングで夏以降の予定を相談

<お昼の礼拝参加者が急増!! 皆様のご協力に感謝します!! \(*v*)/>

2016年度前期の昼の礼拝統計が出ました!! 回数が76回、総出席者数は2,301名 (!!）、1日の平均出席者数は30,2名 (!!!!) でした。これも一重に、毎日の昼礼拝を覚えて出席して下さった皆様のご協力によるものであり、心から感謝しています。また、奨励にご協力下さった教職員・学生の皆様、奉唱や奏楽で礼拝を支えて下さった聖歌隊やオルガン友の会の皆様のお働きにも重ねて感謝いたします。後期、更なる充実を目指してキリスト教センタースタッフ一同で力を合わせていきたいと考えていますので、引き続きご協力・ご加禱のほど、よろしくお願いいたします!!



魂の安らぎを求めて…

＜7月の誕生者祝福礼拝!! 誕生日が嬉しいのは、そこに与えられた命の喜びがあるから!!＞

キリスト教センターでは、毎月最終週の月曜日に、誕生祝福礼拝を行っています!! この日は、7月生まれの16名の名前が読み上げられ、感謝の祈りを奉げた後、前田理事長から祝福と握手が贈られました。何歳になってもみんなから誕生日を祝ってもらえるのは嬉しいものですが、その喜びの原点には、やはりこの世界を、そして私たちの命一つひとつを作られた神様の見えない導きと恵みがあると思います。後期以降もこの礼拝は続きますが、この機会が学内で更に浸透し、大勢の仲間と共にお祝いできればいいですよ!?



喜びに満ちた理事長の祝福

＜先週のメッセージ＞

※ここでは実際に話されたお話の要約を掲載しています

7月25日(月) 前田 次郎(理事長) テーマ:「小さな誠実は世の中を強く美しくする」

以前、与党の副幹事長や省庁の長官も歴任した有名な代議士が、国民の義務である納税をテーマに社会的規範と倫理を論じながら、不正所得が発覚し辞任に追い込まれる騒動があった。古より無責任と金銭感覚の無さは人間の抱える大きな問題であり、我々が生きる今も、バブル経済崩壊後「失われた20年」と呼ばれて久しい。しかし、今日の聖句に記された貧しい女性に目を留めるイエスのように、聖書は、一貫して弱い立場に置かれている者、小さくされている者の側に立ち、その命を守り通してきた。我々も、小さな事の中に隠された神の義を求めつつ歩みたい。

7月27日(水) 野間 光顕(チャプレン) テーマ:「先立って導かれるもの」

先週水曜日の午後、この夏に海外研修を行う学生の壮行礼拝が行われ、約40名の学生と共に皆で心を合わせ旅の安全を祈った。学生の意欲的な目と表情を見てみると、私もこの4月から新しい歩みが与えられている事に気付かされた。昨年の夏、たまたま再会した恩師から声を掛けられKIUに導かれた。KIUの教職員の皆様、そしてチャペルを訪れてくれる学生との出会いに支えられながら、ここまで歩みを進める事が出来た。心からの感謝と共に、今日の聖句にあるような一人ひとりに先立って導かれる主の存在を感じつつ、これからも共に歩みを進めて行きたい。

7月28日(木) 小枝 英輝(リハビリテーション学部) テーマ:「障がい者スポーツについて」

障がいのある人であっても地域で普通の生活ができる社会、これがノーマライゼーションの基本理念である。今年の4月からは、障がいを理由とする差別の解消に関する法律も施行されている。「共生」の基本は、障がいを持つ人がそれを意識しなくても済む社会ではないだろうか。困っている人がいれば、周りから当たり前のように手を差し伸べられる。そのような温かいつながりがあれば、豊かな高齢者社会の実現にも大きく寄与される事だろう。これからリオでパラリンピックが開かれる。これらの力も合わせながら皆が共に生きる社会の実現を強く願う。

7月29日(金) 泉水 朝貴(リハビリテーション学部) テーマ:「嫉妬」

お昼の放送で礼拝のテーマを告知され、今日のようなタイトルにした事を反省したが、人間関係の中で相手を羨む気持ちは様々な場面で表れてくるし、それが大きな問題の原因になる事がよくある。「嫉妬」とはまた違った表現として「羨望」があると思うが、相手との距離が遠すぎるとそのような思いにはならないだろう。相手を認め、受け止める姿勢、これは自分の担当である理学療法の基本であり、また現代社会でも求められている「寛容」にもつながる。お互いの違いを大切にしながら共に歩めるようになりたい。

(文責:野間光顕)